

「ボートレース若松施設整備事業」



目次

1. 公営競技全体の売上推移
2. ボートレース事業全体の概要
3. ボートレース若松の売上・入場者推移
4. 事業名・全体事業費等
5. 事業概要
6. 事業目的
7. 事業内容
8. 事業実施の背景
9. 事業スケジュール
10. 事業の目標
11. 事業の必要性
12. 事業の有効性
13. 事業の経済性・効率性・採算性
14. 事業の熟度
15. 環境・景観への配慮

4. 事業名・全体事業費等

【事業名】
ボートレース若松施設整備事業

【事業箇所】
北九州市若松区赤岩町13番1号

【事業期間】
令和2年度から令和10年度

【全体事業費(概算)】
約70億円



※事前評価1時点からの人件費、鋼材費等の上昇を加味

○本整備事業の事業費財源は、ボートレース事業による事業収益の積立金でまかなうことから、一般財源(税等)の負担は生じない

全体事業費(概算)	6,950		事業費財源内訳	ボートレース事業収益	一般財源(税等)	BR振興会助成金	企業債
	【内訳】	西スタンド棟他の改修		5,345	5,345	0	0
	地域貢献エリアの新設	1,262	969	0	293	0	
	設計費等	343	343	0	0	0	

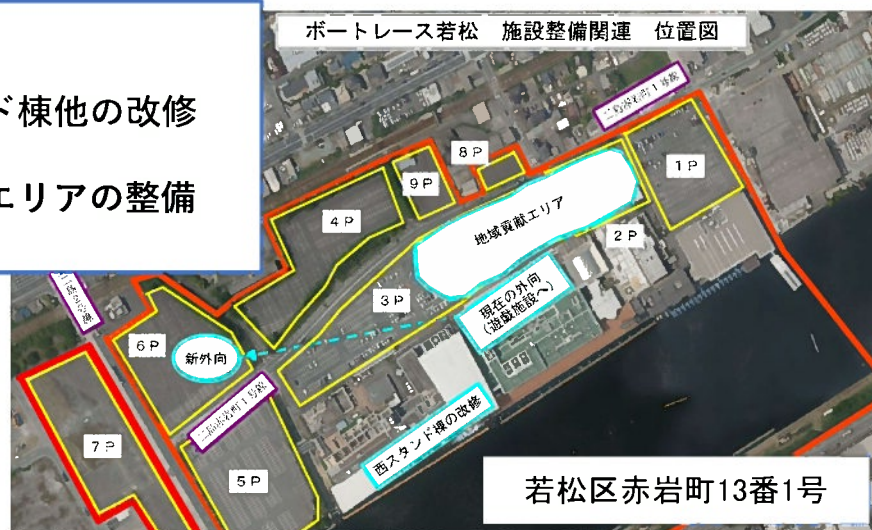
(百万円)

7

5. 事業概要

【事業概要】

- (1) 西スタンド棟他の改修
- (2) 地域貢献エリアの整備



8

6. 事業目的

- 老朽化した西スタンド棟の安全を確保するとともに、将来を見据え、多様化するファンにとって魅力的な集客施設へ改修
- 他局や地域と連携を取り、子育て支援や健康づくりなどの場として地域に貢献できるエリアを整備

事業を実施することで、ポートルース業界が推進している
「ポートルースパーク化※1」に取り組む

(※1 ポートルース場をスポーツ・文化の発信基地や地域住民の健康増進・憩いの場として、地域との共生を目指すもの。)

地域への貢献

業界への貢献※2が評価され、他のポートルース場に対して、
ビッグレースや人気レースの誘致が有利になる

(※2 売上の向上、ポートルースのイメージアップ、業界の動きへの同調 等)

売上の向上

7. 事業内容(西スタンド棟他の改修1)

【西スタンド棟に求められる基本的な機能】

ポートルース競技において、強風はレース開催を左右する重大な脅威
西スタンド棟は、建物自体がレース開催の支障となる強風の遮断、
西日の遮断、騒音の拡散防止機能を有している

入場者が減少する中で、基本的な機能を残しながら、
現建物の大規模改修を実施する

7. 事業内容(西スタンド棟他の改修2)

【老朽化対策】

- 西スタンド棟は築26年が経過しており、今後、増大する維持管理費を削減するため、雨漏り対策など基本的な改修工事を実施
- 年間20万人にも及ぶ来場者の安全性を確保

◇屋上外壁パネル破損

◇3階トイレ天井崩落

◇外壁タイル剥落



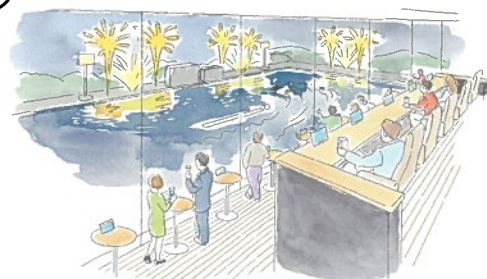
7. 事業内容(西スタンド棟他の改修3)

【新規機能を付加】

- 既存ファンのニーズに応える上質で快適なエリアを整備
- 女性やファミリーなど、新たなファン層を開拓する
アミューズメント空間ヘリニューアル

◇基本的機能

西スタンド棟は、レース開催の支障となる強風や西日を遮断し、騒音の拡散防止機能を有する



7. 事業内容(西スタンド棟他の改修4)

【改修経費】

○西スタンド棟他の改修事業 約53億円 (242千円/㎡)

(参考) 平成28年度東スタンド棟改修 約28億円(215千円/㎡)



13

7. 事業内容(地域貢献エリアの新設1)

【ボートレースパーク化の推進】

○子どもから大人まで幅広い世代を対象に、東スタンド棟前の
駐車場(10,000㎡)を活用し、地域貢献エリアを整備

- ◇モーヴィ
(子供向け屋内外遊戯施設)
- ◇グリーン
(芝生広場、多目的施設など)



コミュニティパーク化事業のイメージ図
出典: BR振興会本場活性化検討委員会資料

14

7. 事業内容(地域貢献エリアの新設2)



【モーヴィ】
ボートレース場のイメージアップや
地域貢献を目的とし、屋内、屋外
に遊具などを設置した施設



パーク化に係る本場活性化事業のイメージ図
出典: BR振興会本場活性化検討委員会資料

15

7. 事業内容(地域貢献エリアの新設3)



【グルーン】
子供たちの健全な育成と
老若男女問わず世代間
交流ができるコミュニティ
の拠点として、芝生広場
や多目的施設を設置する



コミュニティパーク化に係る活性化事業のイメージ図
出典: BR振興会本場活性化検討委員会資料

16

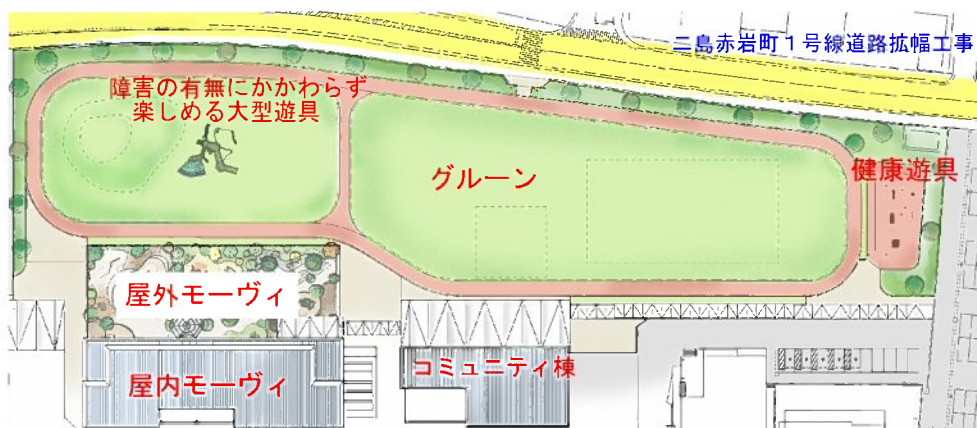
7. 事業内容(地域貢献エリアの新設4)

【地域貢献エリアの概要】

- 多くの人が集う、地域にとってかけがえのない場所を目指す
- 地域貢献活動、健康づくり、子育て支援の場の充実
- 地域貢献エリアの新設事業費は約13億円
- モーヴィは業界の意向に沿い有料とし、入場料は先行している
他場と同額に設定

7. 事業内容(地域貢献エリアの新設5)

【地域貢献エリアのイメージ図】



8. 事業実施の背景(1)

【西スタンド棟の老朽化】

- 近年施設の老朽化に伴い、屋根材の脱落、雨漏り、鳥害なども発生
運営しながらの修繕では追いつかない状況である

【本場入場者数の減少と新規ファン獲得の必要性】

- 発売額が好調である一方、本場入場者数は全国的に大きく減少する傾向
- 新規ファンの獲得が、将来の事業継続の面で大きな課題
- ライブでレースを観戦し、ボートレースの魅力を経験してもらうことが
新規ファンの獲得に重要
- 施設整備等により本場活性化を推進し、新規ファンの来場促進を図ることが、
ボートレース業界から強く求められている

8. 事業実施の背景(2)

【経営戦略と業界全体の取組み】

- 公営競技局では、平成31年3月に「経営戦略」を策定し、
3つの目指すべき将来像を掲げた
- 「経営戦略」の策定にあたっては、ボートレース業界全体で推進するボート
レースパーク化が、本場の活性化による将来を見据えた持続可能な戦略で
あることを踏まえ、全ての将来像を横断する取り組みとして位置付けている

将来像Ⅰ 【売上】	選ばれるレース場	売上を確保していくためには、 若松の舟券をボートレースファンに 買っていただくこと、BR若松に足を 運んでいただくこと等が重要	ボート レース パーク化
将来像Ⅱ 【運営・財務】	健全な運営・信頼されるレース場	本市収益事業としての責務を果たす 業務運営・財務運営	
将来像Ⅲ 【地域・社会貢献】	親しまれるレース場	将来にわたりBR事業を持続させる には、事業のイメージアップと市民 理解の促進が不可欠	

8. 事業実施の背景(3)

【良好な経営状況】

- 売上額は一時期の落ち込みから回復し、令和3年度は過去最高の1,383億円の大台に乗り好調期を継続中
- 一般会計繰出金の直近5年間の合計は141億円
(H29:35億円、H30:15億円、R1:15億円、R2:26億円、R3:50億円、R4(予算):50億円)
- 事業費財源はボートレース事業の収益金である
建設改良積立金ですでに所要額を確保できている
- 本事業の実施により、経営戦略において目標に掲げた
一般会計繰出金への影響は生じない見通し

9. 事業スケジュール



10. 事業の目標(1)

	成果指標名	基準年次	基準値	目標年次	目標値
目標1	1日あたりの本場入場者数	令和元年度	930人	令和13年度	1,200人
	西スタンド棟を改修することで、既存ファンの定着と新規ファン層（女性や若者、ファミリー、カップル等、新たなファン層）の拡大を図り、本場来場者を増加する。				
目標2	地域貢献エリア年間来場者数	令和元年度	延べ5.5万人	令和8年度	延べ15万人
	舟券購入以外の目的でも、子どもから大人まで、特に親子連れが気軽に安心して遊べる地域貢献エリアを新設することで、ボートレース場のイメージチェンジを行い、新たな賑わい拠点を目指す。				
目標3	B R若松イメージ調査 (気軽に行きやすい)	平成30年度	71% 15%	令和13年度	90% 90%
	ボートレースパーク化により、舟券購入以外の目的でも気軽に遊びに行きたい場所を目指す。 ※目標値は、イメージ調査で舟券購入経験者（基準値の上段）、未経験者（同下段）ともに、西スタンド棟供用開始3年後の調査で90%とする。				

23

10. 事業の目標(2)

【財源内訳・管理運営コスト・収支予測】

- 本事業については一般財源の負担は生じない。
- ボートレース振興会のパーク化に対する助成金の活用が可能。
- 西スタンド棟は現在と同程度の管理運営コストを想定。
モーヴィ単体収支は、他場事例より赤字が見込まれるが、ボートレース事業イメージアップのためのPR費用と考える
(年間収支見込み概算 収入:約20百万円、支出:約50百万円)
- ボートレース事業全体としては黒字であり、施設整備(ボートレースパーク化)によりビッグレース誘致につながる。

24

11. 事業の必要性(現状と課題)

【西スタンド棟の老朽化】

- 築26年が経過し、老朽化が進んでいる
 - ・年間20万人にも及ぶ来場者の安全性を確保する
 - ・今後、維持管理費の増加が見込まれる

【保有資産の有効活用】

- 場内エリアや駐車場などに遊休スペースが発生している

【利用者の要望】

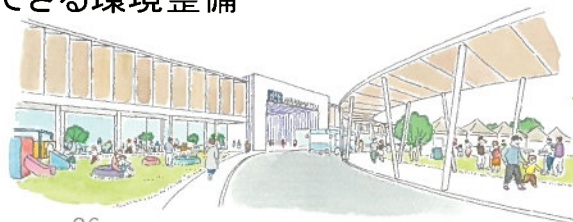
- 新規ファンのニーズとミスマッチな観戦環境を整備する
- 地域貢献活動の推進とともに全国のボートレース場と足並みをそろえたイメージアップ拡充に取り組む



25

11. 事業の必要性(将来需要(将来にわたる必要性の継続))

- ファンの来場促進により、将来にわたる安定的かつ継続的な収益確保のための投資
- 来場者が増加し、声援が増えることによるボートレーサーのモチベーション向上
- ボートレーサーを目指すファンを増やすための迫力あるレースを観戦できる環境整備



26

11. 事業の必要性(市の関与の妥当性／事業の緊急性)

【市の関与の妥当性】

○ボートレース事業は、モーターボート競走法において地方自治体に対して認められた収益事業であり、公営競技局の責任のもと施設を整備する

【事業の緊急性】

○西スタンド棟は築26年が経過し、雨漏り対策や諸設備の改修、強風時には外壁パネルの一部がはがれるなど、安全確保の面からも、緊急かつ抜本的改修が必要

○イメージアップに取り組むうえで、早期にボートレースパーク化へ着手することにより、より早くその効果が得られる

○ボートレースパーク化に対する助成金約3億円の活用が可能な時期

12. 事業の有効性

○西スタンド棟の老朽化解消により、来場者の安全性を確保

○既存ファンの定着と新規ファン層の拡大による将来の売上拡大

○保有資産の有効活用とボートレースパーク化を同時に実現

○他局と連携を取ることで、子供の健全な成長や子育ての支援、スポーツや健康づくりの場の充実を図ることが可能となり、地域に貢献

13. 事業の経済性・効率性・採算性(1)

【コスト縮減対策の検討等】

○「モーヴィ」の屋内施設

外向発売所移転後→建物の再利用

※新耐震基準の施設であり、耐震補強は不要である

○「グリーン」

ランニングコストを下げるため、本場運営に係る業務委託の活用を検討

○塩害や強風などを念頭に置きながら、素材や工法等の検討

13. 事業の経済性・効率性・採算性(2)

【ビッグレースの誘致】

- 西スタンド棟の大規模改修と地域貢献エリアの新設を併せて実施し、**ボートレースパーク化を進めることで、業界への貢献が評価され、多大な収益をもたらすビッグレースの誘致に繋がる**

13. 事業の経済性・効率性・採算性(3)

○施設整備に伴い「G I ダイヤモンドカップ(売上約90億円)1回」や「SGレース(売上約160億円)2回」等のビッグレース誘致に繋がる

○現状をベースに、施設整備に伴う効果として、経営戦略前期中期計画における5年間分を試算

内 容	現 状(※)	施設整備効果	差 引
収益金の目標	83億円以上	94億円以上	+11億円
繰出金の目標	60億円以上	68億円以上	+8億円

○公営競技局としては、収益金11億円の増

○北九州市としては、一般会計繰入金8億円の増

※「北九州市公営競技事業経営戦略」内の前期中期計画における「長期収支(5年間)」

14. 事業の熟度

1 ポートレース若松の施設全体を対象とした改修に関する基本構想の策定(令和元年度)

- ポートレース振興会の本場施設改革改善相談室がアドバイザー参画
- 施設全体の現状分析、課題把握
- 来場者及び非来場者へアンケートを行い、ニーズ調査を実施など

2 ポートレース若松の施設全体を対象とした改修に関する基本計画の策定(令和2年度～)

- ポートレース振興会の本場施設改革改善相談室がアドバイザー参画
- 敷地全体及び各施設の機能構成等検討

3 関係者及び地域住民等からのヒアリング(令和元年度～令和4年度)

- 日本モーターボート競走会、日本モーターボート選手会等へのヒアリング
- 施設整備の概要について、ポートレース若松周辺対策運営協議会にて意見交換

※地域の声:「地域貢献活動の推進に期待する」、「孫を連れて遊びにきたい」など

15. 環境・景観への配慮

1 環境への配慮

- 公営競技局独自で定めた「公営競技局SDGs経営宣言」の取組に沿って、創エネや省エネ設備の導入、フロンガス排出抑制等環境負荷の低減に積極的に取り組む
- CASBEE北九州の上位評価を目指す

2 景観への配慮

- 北九州市景観づくりマスタープランに基づくものとする
- 近寄りがたさ、閉鎖的等の負のイメージを払拭し、本場周辺環境に好印象をもたらすような夜間のライトアップを含め、地域に親しまれる景観の形成に積極的に取り組む